

6 0 1 1 - 1 1 4 5
令和 3 年 5 月 1 0 日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和 3 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号について

令和 3 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を公表したので送付します。

令和 3 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

1 病害虫名：トマト黄化病

2 病原ウイルス名：トマト退緑ウイルス (*Tomato chlorosis virus*: T o C V)

3 作物名：トマト・ミニトマト

4 発生確認の経過

- 1) 令和 3 年 (2021年) 3 月、県内の施設栽培トマトほ場 1 戸において、葉が黄化する症状が認められた (図 1、2)。また、別の施設栽培ミニトマトほ場 1 戸でも同様の症状が確認された (図 3、4)。現場ほ場より検体を採取し、宮崎県総合農業試験場において R T - P C R 法によるウイルス検定を行った結果、両検体ともに、本県未発生 of トマト退緑ウイルス (T o C V) によるトマト黄化病であることが判明した。
- 2) 本病は、平成 20 年 (2008 年) に栃木県で初めて確認され、九州、関東、中部、四国を中心に 21 都県で確認されている。

5 病徴

- 1) 本病の初期症状は、下位葉から中位葉の一部で葉脈間が退緑黄化し、斑状の黄化葉となる。
- 2) 症状が進むと葉脈に沿った部分を残して葉全体が黄化し、えそ症状が現れる。
- 3) 本病の黄化症状は苦土欠乏症に似ており判別が難しい。
- 4) 発病株では生育が抑制され、収量が減少する傾向にある。

6 病原ウイルスの特徴

- 1) 本ウイルスは、クリニウイルス属に属し、タバココナジラミ (バイオタイプ B 及び Q) 及びオンシツコナジラミが媒介する。
- 2) 本ウイルスを吸汁したコナジラミ類は、数時間から数日間ウイルス媒介能を有する。
- 3) 本ウイルスが属するクリニウイルス属ウイルスは、経卵伝染、汁液伝染、種子伝染、

土壌伝染はしないとされている。

7 防除対策

- 1) 媒介虫であるコナジラミ類の防除を徹底する。なお、農薬で防除する際は、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心がける。
- 2) 施設の開口部に防虫ネット（0.4mm以下）を設置する。
- 3) 発病株は直ちに抜き取り、ほ場外に持ち出し適切に処分する。
- 4) コナジラミ類の増殖を防ぐため、施設内及び施設周辺の雑草を除去する。
- 5) 施設外にコナジラミ類を分散させないため、栽培終了時にはハウスを密閉し、コナジラミ類を死滅させる。



図1 施設内の発生状況（トマト）



図2 葉の黄化症状（トマト）



図3 施設内の発生状況（ミニトマト）



図4 葉の黄化症状（ミニトマト）

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場 病害虫防除・肥料検査課
(病害虫防除・肥料検査センター) 久野・椎葉

TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>